

令和5年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業
第2回 オンライン研修 実施報告書

■日時:令和5年7月26日(水)13:00~15:00

■参加人数:56名

進行:特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会 代表理事 土井佳彦

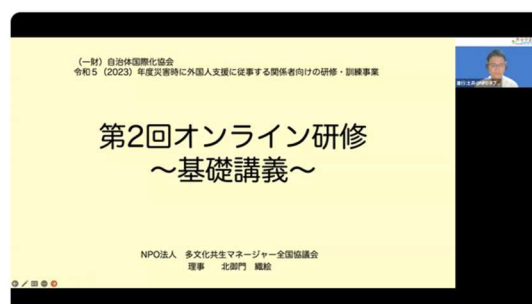
■タイムテーブル

時刻	内容
12:50	開会前アナウンス
13:00	開会
13:05	災害時の外国人支援 基礎講義 NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会 代表理事 土井佳彦
13:40 ~ 14:20	「2019年 台風15号、19号から考える災害時の外国人支援とは」 千葉県鴨川市市民福祉部市民生活課 山口 紀子 様
14:20 ~ 14:40	グループディスカッション 1.自己紹介 2.講義の感想 3.自分の地域でこれからやってみたい取り組み
14:40	全体共有
14:55 15:00	まとめ、アンケート依頼、次回の案内 <終了>

【基礎講義】

特定非営利活動法人
多文化共生マネージャー全国協議会
代表理事 土井 佳彦

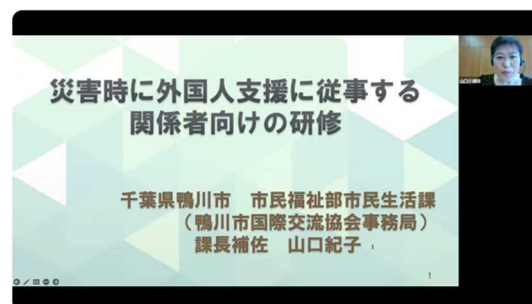
概要:災害時に外国人が直面する課題や地域防災における位置づけについて共有し、誰でも使える多言語支援ツールについて紹介した。



【事例紹介】

「2019年台風15・19号から考える災害時の外国人支援とは」

鴨川市市民福祉部市民生活課 山口 紀子 氏
概要:2019年に起こった台風15号と19号の房総台風の経験を中心に、被災前の取り組みと被災後の取り組みについて講話。継続した取り組みや顔の見える関係を気づくことの大切さを紹介した。



(質疑応答)

- Q 災害対応を経験し、平時にやっておいてよかったと思うことはなんですか。
- A 日頃の取り組みで対応できる体制ができたと思った。異動してきた時は何もわからなかったけど、今は自分が勉強できる環境が整ってきたこともいいと思う。研修会などで出会った人たちとのネットワークのおかげで、サポートしてもらえる関係が作れたこと。それから多言語情報シートを準備していたこと。今、鴨川市では印刷してラミネートしてホワイトボードマーカーも一緒に設置している。マーカーは直接ラミネートをしているシートに記入ができ、修正もできるようにしている。
- Q 巡回は市役所の広報班がされましたか。それとも協会の方ですか。また巡回時に収集した外国人の困りごととはどんなことがありましたか。
- A 巡回は市役所の広報担当が行った。そこでは、ブルーシートや土嚢や水・パンを配ることが主な業務だったので、外国人からの困りごとを聞くことはほとんどなかったが、ペットを連れて行っていいかという電話が直接、自分のところにかかってきた。
- Q ボランティアの方の翻訳作業はどこで作業をしていましたか。自宅ですか市役所ですか。
- A 鴨川市が把握しているボランティア(中国語・英語)は自宅で作業をやってもらった。ベトナム語については鴨川市に以前住んでいた元留学生が県外で就職をしており、仕事が終わってから翻訳支援をしてくれた。また、社会福祉協議会のボランティアセンターに来た方が、翻訳ができることで協力者になってもらい、その方は市役所が提供した部屋で翻訳作業をしてもらった。
- Q 災害時の外国人支援体制を築く上で苦労されたことや工夫されたことはありますか。
- A 地域の連携を作ることが大切だと思う。どのように協力をお願いしたかということ、以前消防署に話をしに行った時、共通の課題があることがわかり連携体制ができた。また、赤十字の方にも熱心に話をしに行くなど、毎年色々な団体に話に行っている。またこちらの事業に参加してほしいということだけでなく、先方のイベントに参加して顔を知ってもらうことも大事だと思うので、積極的に足を運んでいる。
- Q 災害時にオンラインの対応はありましたか。また在宅避難者への対応はどうされましたか。
- A 被災当時はいろんな情報を LINE グループや HP など多くの媒体で発信しようとしていたが、当時は翻訳をするだけでとても大変で体制が整わず、鴨川市の HP に情報の発信を一本化することにした。また、自宅避難者の状況は確認できなかった。自分に連絡が来た人はある程度サポートしていたが、こちらから電話をかけるなどの対応はしなかった。
- Q 非正規職員で外国人相談を対応しています。防災研修などで事業提案してもなかなか受け入れてもらえません。1人ではないと励ましてもらったが、多言語支援が組織の体制として組み込まれるためにはどうしたらいいでしょうか。
- A 自分の場合は上司がとても理解のある人だった。ある程度外国人が多い地域で災害が起きれば日本人も外国人も多くの人が被災する。でも鴨川市のような外国人・日本人も人口が少ないところでは、日本人だけ避難できて外国人が犠牲にあったということになったら大変だと思ったので、そのことを当時の上司に話をした。そして上司と一緒に研修会などに参加して共通認識を持つようにした。そうすることで次に新しい人が異動してきた時に、研修に行くことが担当課として大事なことで認識されるようになり仕組みができた。またテレビや新聞にも出るようになり、「この取り組みは大事だね」といろんな人から言われるようになった。するとこの取り組みが「大事

なこと」となり続いてきた。一歩ずつだと思う。10歩進めば多くの人に知られて、それが100歩になる。まずは1歩、2歩の行動を。

Q 外国人の方で協力してくれた人がいたが、外国人の方に協力を得るために鴨川市でやっていることはあるか。

A 協力してくれたシンガポール人の方はたまたまだったが、城西国際大学についてはベトナムや中国のイベントを開催しており、そのイベントの最後に防災課からもらった非常食を配布して、市役所からのお知らせを10分ほどもらい、防災の話をする取り組みをしている。何かあった時には助けてほしいと常に訴えている。

【グループディスカッション(6グループ)】

分け方:地域、ブロックを超えたグループを編成

- ・自己紹介
- ・講義の感想
- ・所属団体での取り組み紹介など

【全体共有】

1グループからの発表

全体的に意見交換をした中で、小松市ではかつて水没した経験があったが、外国人支援についてはできていなかったという話が印象深かった。今後の活動については仙台観光国際協会さんからの話については電話やメール中心が多くなってしまっているの、コロナ後の新たな関係づくりもしていく必要があると感じているとのことだった。個人的に自分のところについてはイスラム教徒の方々についてワークショップを開こうと思っているがどのように支援体制を作っていくかが課題と思っている。

2グループからの発表

このグループのメンバーは災害対応経験がない職員だったので今日の講義については具体的に事例までお話いただき大変参考になった。外国人の方々は一一般的な日本人に比べると色々なことが乖離していると感じた。今後の取り組みについては、アクティブな外国人の方々と常にネットワークを構築していくなど、関係性を作っていくことが大事と思った。

3グループからの発表

自己紹介、感想について話をしたあと、今後の取り組みについて話をしました。当団体は昨年9月に水害にあった。今までも多言語支援センターの設置運営訓練や外国人のための防災訓練などの取り組みをしてきたが、地震を中心に訓練をしており、今後は水害に対しての訓練も実施する必要があると共有。相模原市さんも同じような感想でした。広島県からは行政職員は2~3年で異動があるので継続した訓練をしていきたいとの意見もあった。山梨県国際交流協会からは協会の場所を今年度移転したので新たに場所を周知していく必要があるとの話もあった。

4グループからの発表

今回の講演を聞いて、自分達の出来ている事、出来ていない事分かって良かったという意見があり、場所によって地震に特化しており水害は経験していない、とか、実際に災害が起きていないので不

安など地域性も見られた。事前準備が大事という意見や他団体(市や県)などと協力体制をとって対応していかなければという意見もあった。語学ボランティアについて今後どのように活用していくかの意見交換があり、翻訳の作業や通訳をいかに充実させていくのかという話をした。

5グループからの発表

研修の感想と自分の地域のこれからやってみみたい取り組みを紐づけて情報共有した。内容としては他者を巻き込むやり方や情報発信のあり方、それから外国人の方と一緒に取り組む研修や、ボランティアの増やし方について課題に思っているとの話があった。多言語支援センターの設置運営をしているところは運営手法やマニュアルのあり方について課題を感じている。地震に特化している内容になっているので、風水害の対応についてマニュアルの改訂をやっていきたいとの話もあった。

6グループからの発表

自治体内の規模は様々だったが、まずは自治体内の外国人支援についての意識向上が必要という話や、防災部門と国際交流部門の関係づくりなどの共有があった。外国人住民との顔の見える関係について、大阪府国際交流財団さんは、多くの外国人ボランティアに登録をしてもらっているが被災経験がないため、ボランティアの活躍する場がまだなく、実際に被災した時にどんな形で活動をお願いできるかが分からないといった意見があった。だが、一方で学校での多文化交流などの事業で外国人住民の方にも活躍してもらい関係づくりを進めているという紹介もあった。長年住んでいる外国人も川の防災サイレンの意味を知らない人もいるので、地域日本語教室や通っている学習者を通じて日本の災害の仕組みや文化を知ってもらう取り組みもしていく必要があると共有した。大分県だと別府や湯布院といった外国人観光地も増えていることもあり、先日の大雨でも福岡方面に行くバスやJRが止まってしまい駅の方でどうすれば良いのかと困りごとを抱えた外国人観光客の問い合わせがあり、外国人住民だけではなく観光客への対応も重要という話を共有した。

【まとめ】

本日は貴重な事例発表、またグループ内での意見交換などご協力に感謝。色々な方のご意見を聞くと、地域でやることはたくさん見えてくるし、話題が広がっていくが、講師の山口さんのお話にもあった通り、できることから、まずはやっていくしかないのだから、ひとつずつ取り組んでいきましょうという言葉が、今日の講義のまとめの一言につながると感じた。この2時間の短い研修でいろんなことが解消されるとは思わないが、今後の事業の中でお互いに協力しながら進めていけたらと思っている。

【閉会】

【参加団体一覧】

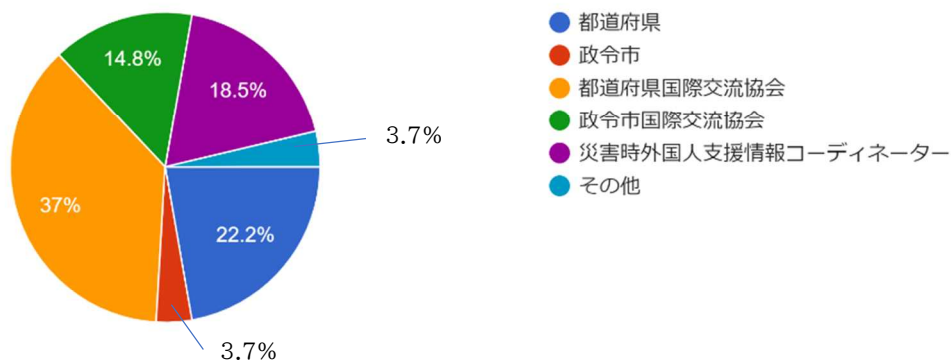
地域ブロック	都道府県	団体名	出席者数
北海道・東北	岩手県	(公財)岩手県国際交流協会	1名
	宮城県	(公財)仙台観光国際協会	1名
	新潟県	新潟県	1名
		(公財)新潟県国際交流協会	1名
関東	茨城県	つくば市	1名
	千葉県	千葉県	2名
	東京都	東村山市	1名
	神奈川県	神奈川県	1名
		相模原市国際交流ラウンジ	1名
		(公財)横浜市国際交流協会	1名
	山梨県	山梨県	3名
		(公財)山梨県国際交流協会	1名
	長野県	長野県	1名
箕輪町		1名	
東海・北陸	石川県	小松市	1名
	岐阜県	高山市	2名
	静岡県	静岡市	1名
	愛知県	愛知県	1名
		(公財)愛知県国際交流協会	5名
		(公財)名古屋国際センター	3名
近畿	大阪府	大阪府	2名
		(公財)大阪府国際交流財団	2名
		(公財)大阪国際交流センター	4名
	兵庫県	(公財)西宮市国際交流協会	1名
中国・四国	鳥取県	(公財)鳥取県国際交流財団	1名
	広島県	広島県	1名
		(公財)広島平和文化センター	2名
		広島市	1名
	山口県	(公財)山口県国際交流協会	1名
九州	福岡県	(公財)福岡県国際交流センター	2名
		(公財)北九州国際交流協会	1名
	佐賀県	佐賀県	1名
		伊万里市	1名
	長崎県	(公財)長崎県国際交流協会	1名
	熊本県	熊本市	1名
		大分県	大分県
	大分市		1名
	長崎県	宮崎県	1名
	宮崎県	(公財)宮崎県国際交流協会	1名

令和5年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業 第2回 オンライン研修 実施報告書(アンケート)

1 あなたのことについて教えてください

Q1. 所属団体・部署等 (選択式)

27件の回答



Q2. 都道府県 (選択式)

ブロック	都道府県名	回答数
北海道・東北ブロック	岩手県	1
	宮城県	1
	新潟県	1
	計	3

ブロック	都道府県名	回答数
関東ブロック	茨城県	1
	千葉県	2
	神奈川県	1
	山梨県	1
	計	5

ブロック	都道府県名	回答数
東海・北陸ブロック	岐阜県	1
	愛知県	6
	計	7

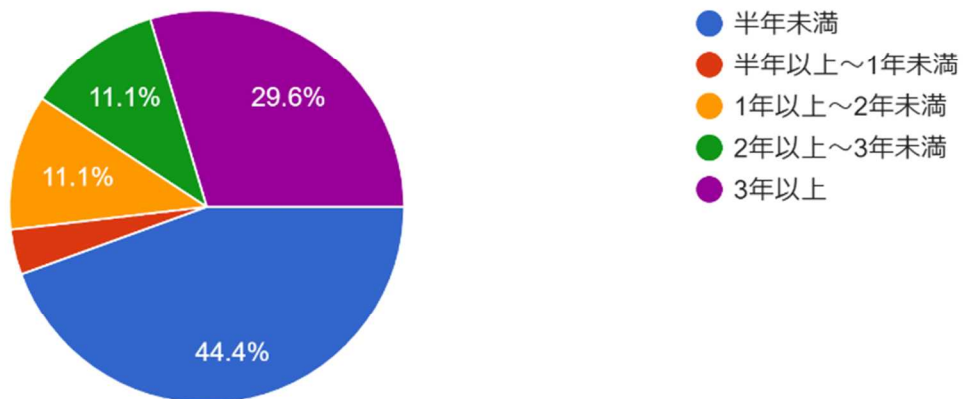
ブロック	都道府県名	回答数
近畿ブロック	大阪府	3
	兵庫県	1
	計	4

ブロック	都道府県名	回答数
中国・四国ブロック	鳥取県	1
	山口県	1
	計	2

ブロック	都道府県名	回答数
九州ブロック	福岡県	1
	長崎県	1
	大分県	2
	宮崎県	2
	計	6

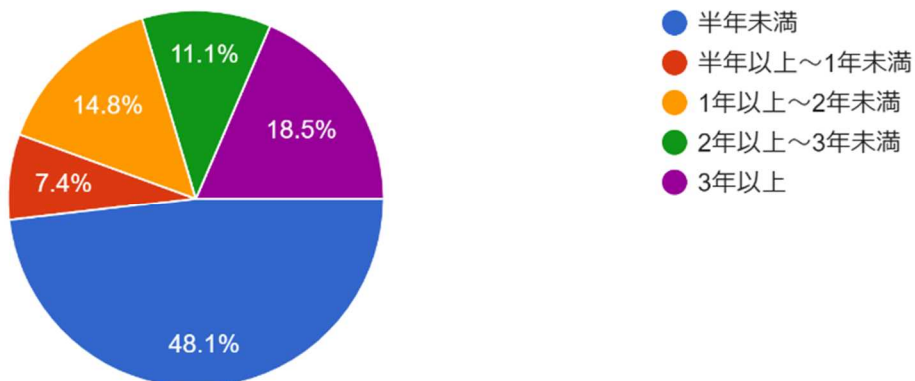
Q3. 多文化共生関連事業の経験年数（選択式）

27件の回答



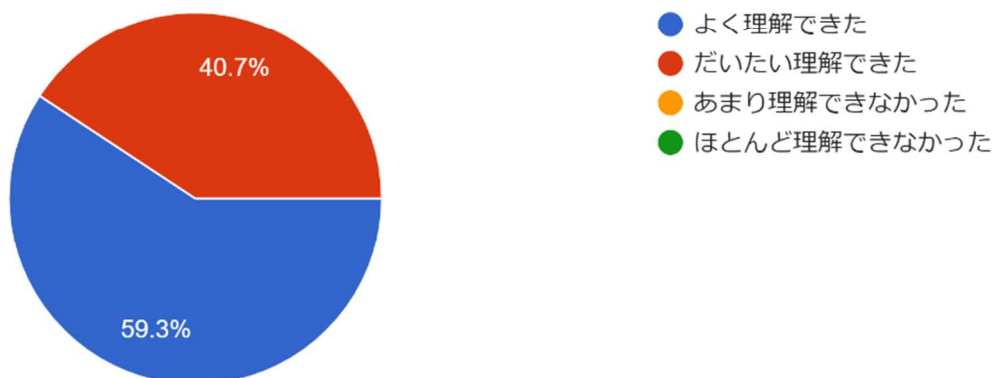
Q4. 災害時外国人支援関連事業の経験年数（選択式）

27件の回答



Q5-1. 基礎講義の内容は、ご理解いただけましたか？

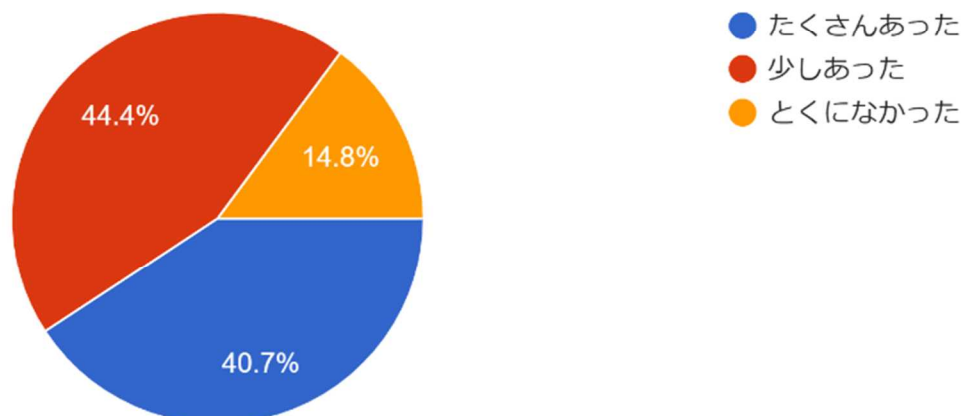
27件の回答



Q5-2.「Q5-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

回答:0

Q6-1. 基礎講義の中で、新たに知ったことや、気づいたことはありましたか？
27件の回答



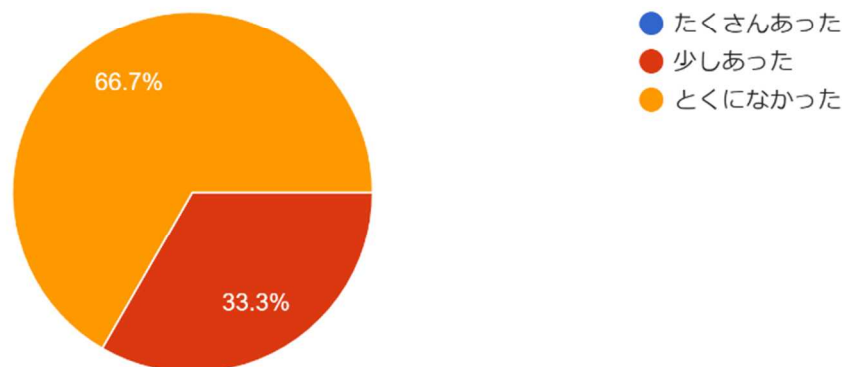
Q6-2.「Q6-1」で、「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- ・ 近年の全国の外国人状況、多言語支援ツールについて
- ・ 多言語表示に関するツールが多くあること。事前に準備しておくことが重要であること。
- ・ 具体的な相談事例を挙げていただき、それに対してどのようなツールを活用すべきかアクションを想像しやすい内容だった。特に多言語避難者登録カードや災害時多言語表示シート、多文化共生関連資料の相談事例等すぐに活用したい。
- ・ 事前準備や、日頃から顔が見える関係性づくりの大切さ。
- ・ 近年の外国人の状況と災害時に外国人が直面する課題が分かり勉強になりました。また、多言語支援ツールなど非常に有用な情報をいただきました。
- ・ 新しい情報を知ることができた。自身の協会や行政でできていない取り組みや課題がわかった。
- ・ 外国人住民は年々増加傾向にあるため、災害時に外国人が直面する課題と背景について日頃より考え、そのための準備をすることは大切であること。貴協会の「災害時の多言語支援のための手引き 2018」は参考になりますし、災害時多言語表示シートの作成(ラミネート加工する)や多言語情報共通ツールは有効活用できると思いました。
- ・ 災害時多言語情報表示シートについて、ホームページに作り方の動画が掲載されていることを初めて知りました。
- ・ 永住者は災害時の担い手になりやすい、ということを知りました。
- ・ 他県の作成資料
- ・ 災害時多言語表示シートがとても充実していること。

- ・ クレアや他の自治体から事例紹介が多くあることが分かったので参考にしたい。
- ・ 以前もタブマネさんが講師の講義を聞いたことがあり、内容が同じだったので。
- ・ ピクトグラムを活用する
- ・ クレアの多言語情報等共有ツールの他、いろいろなツールがあると分かりました。
- ・ 災害時の多言語支援の手引きや、避難所等で活用できる多言語表示のツールが提供されていること
- ・ 外国人の状況や多言語支援方法
- ・ 災害時に外国人のスタートラインは日本人のそれとは異なるという点。日本人にとっては子供のころから学んでいる防災の常識が、外国人にとっては常識ではないということは意識する必要があると思いました。
- ・ 配慮が必要な人は外国人だけではないこと。外国人も災害時の担い手になってもらえること。住民票がなくても避難所で受け入れる必要があること。「炊き出し」など普段使わない言葉もあること”
- ・ 様々な支援ツールについての再認識

Q7-1. 基礎講義の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？

27件の回答



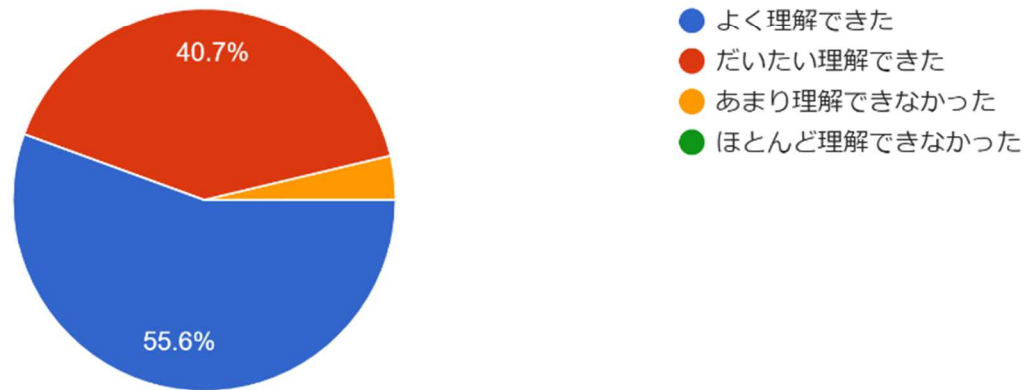
Q7-2「Q.7-1」で「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- ・ 当協会では、災害時の通訳・翻訳ボランティアの確保が課題となっているが、市町での対応お願いしているものか、近年、大きな災害に見舞われていないため、役割分担がよくわからない。
- ・ 外国人に災害の知識を持ってもらうためにどんな工夫をしているか。(外国人向けの災害研修など行なっている場合、通訳や資料の翻訳はどのようにしているのか。)
- ・ 市町村単位でなく、広域全体(府内)のサポートに関し、気を付ける点やアドバイス等があると教えていただきたいです。
- ・ ツールの具体的な活用事例等が知りたかった。
- ・ 他の国際交流協会が災害時支援についてどのような事業を行っているかを知りたかった。

- ・ 災害時外国人支援の担当からしばらく離れているため、活用できる多言語ツールの紹介が参考になった。

Q8-1. 事例紹介の内容は、ご理解いただけましたか？

27件の回答

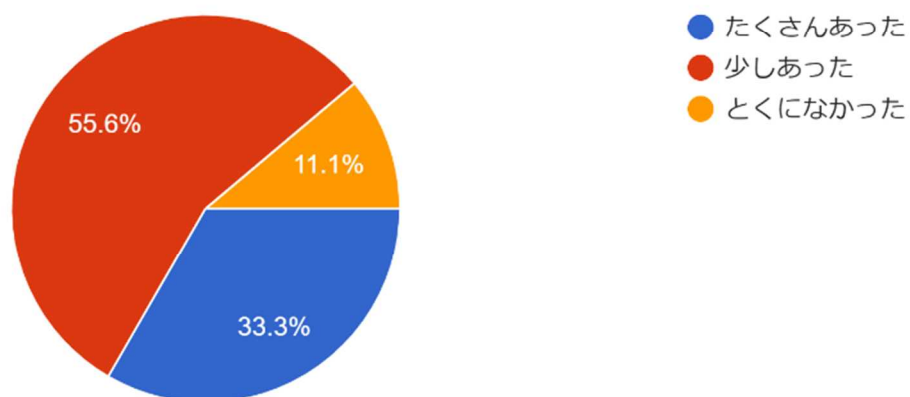


Q8-2.「Q8-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

- ・市町レベルでの事例紹介だったので、県レベルでどうなるのか知りたかった。

Q9-1. 事例紹介の中で、新たに知ったことや、気づいたことはありましたか？

27件の回答



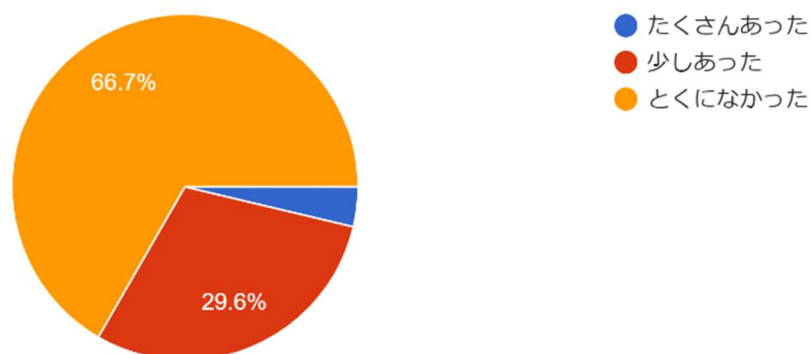
Q9-2.「Q9-1」で、「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- ・ 災害時の情報発信に関する対応内容について

- ・ 日頃の関係構築、災害時の対応の流れなど
- ・ 台風で停電が2週間続いた際にも、情報発信できることは地道に行うことが大切であるということ。スタッフの業務量も考え、情報発信の媒体はHP一つに絞る判断も必要であるということ。
- ・ 関係機関と普段から関係性を持つておくことの必要性を改めて感じた。
- ・ 被害が甚大で無線等想定されている情報伝達ツールが使えない事態のために、事前に備えていく必要があると感じました。
- ・ 事前準備が大切であること、また、平常時からボランティアの方や近隣機関との連携が大切である事を学びました。
- ・ できることからすることを再認識した。
- ・ 災害発生前の「災害時外国人支援の取り組み状況」と、発生後の取り組み状況の変化について、「災害遺児外国人対応のための人材育成」が大切であること。
- ・ 電気が切れていたとしても、ホームページに情報を掲載することが大事で、それが被災者の役に立ったり、翻訳ボランティアの確保につながることもあるということ。
- ・ 日頃の関係づくりと関係づくりを通して平時からの自他ともに災害について意識付けることがとても大切だということがよく理解できました。
- ・ 他機関等の巻き込み方や情報発信の方法
- ・ 電気がつながってなくても、常にホームページに情報を載せていくこと。
- ・ 外国人への情報発信ツールを一元化することの重要性
- ・ 多言語避難者登録カードの存在、必ずしもSNSがベストなコミュニケーションツールではないこと。
- ・ 台風発生時の外国人支援対応について具体的な話があまりなかった。情報の多言語化などについて、具体的にどう進めたのか、その際の課題など、詳しく知りたかった。
- ・ 事前の関係者との顔が見える体制の構築、周知方法の一本化
- ・ 翻訳した情報の提供方法やタイミング。人材育成の取組
- ・ 災害時の対応が実例をもとに紹介いただき、実際にイメージできた
- ・ 顔が見える関係を作る、ということが関係者間での連携において重要なお話は印象的でした。
- ・ 普段から研修に参加したり、訓練を年1回は開催したり、人とのつながりを築いたりするなど、普段からの積み重ねが大切だと知った。
- ・ 市町村拠点での判断の実情や支援の実態

Q10-1. 事例紹介の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？

27件の回答

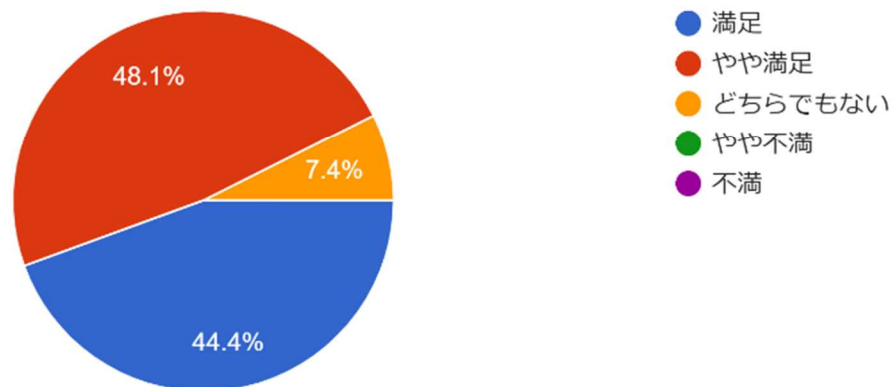


Q10-2 「Q.10-1」で「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- ・ 災害時の外国人対応で、ホームページに情報提供を一括したことで、LINE 等で情報提供していた時と比べて、受け取り手の状況はどうだったか。(受け取りやすくなった。どこに掲載しているかわからなかった。など何かあれば教えていただきたいです。)
- ・ 水害時の外国人の方の困りごと(風水害時特有のもの)について知りたかったです。
- ・ 在宅避難の方への対応はどのようにすれば良いのだろうかと思いました。
- ・ 災害を経験される度にどのように業務をブラッシュアップされたか等、もう少し詳しくお話を伺いたかった。
- ・ 防災機関や他の外国人支援団体との日頃からの連携が大切であること。
- ・ 実際にどのような相談が多かったか。
- ・ 外国人人口などに地域差があるため、同じぐらいの地域規模でグループを組んで、意見交換できるとよかった。

Q11-1. オンライン研修全体を通じての満足度をご回答ください

27 件の回答



Q11-2 Q11-1 の回答の理由やオンライン研修全体を通じてのご意見やご感想をお聞かせください。

- ・ 講義内容も分かりやすく、毎回新しい事例紹介を聞くことができ勉強になります。
また、参加者同士での意見交換の時間も、異なる地域での取り組みを学ぶ良い機会です。ありがとうございました。
- ・ 全体の研修を通して、具体的なアクションを考えさせられました。各ツールの存在を知っていたものの、どのようなシーンで活用すべきか十分に理解していなかったことに気づかされました。また、山口様のご講演では「心境」も交えてお話いただき、想像しやすく主体的に研修を受けることができました。
- ・ そして、最後の他市町村や協会との意見交換会では、「災害時外国人支援のための通訳ボランティア」に関する課題を挙げさせていただきましたが、共通で課題として挙げられていた団体が今回の意見交換で多くいらっしまったのが印象的でした。

- ・ 顔の見える関係性づくりをするためにどうすべきか、有事が発生しないかぎり連絡をとることができないボランティアの方が存在してしまっている現状において、ボランティアの状況を把握するにはどうすべきか、アクションを細分化していかなければならないなど感じました。
- ・ ディスカッションの時間がもう少し長いとよかった。感想の共有して終わってしまった感じがした。
- ・ 風水害での支援について具体的にどんなことを準備すべきか、多言語支援センター運営マニュアルにはどの程度書き込んでいるか、外国人にはどのような啓発をしているか、ボランティア訓練にはどのような要素を織り込んでいるのか等、事前にある程度予想できる風水害ならではの対応方法について、より深く学び、当財団のマニュアルや訓練への反映に活かしたかったです。またグループワークの中で講師にもっと質問したかったという声がありました。
- ・ 参加者の方のご意見を含め、とても勉強になる研修でした。ありがとうございました。
- ・ 毎回、学ばせていただくことがたくさんあります。どうもありがとうございました。
- ・ 初めてオンライン研修を受講しました。災害時の外国人支援に関して、今まで実際に関わったり考える機会がなかったため、今回の研修はとても有意義でした。業務で実践したいと感じたものもいくつかありましたので、参考にさせていただきたいと思いました。
- ・ 研修内容は大変分かりやすく、業務の参考になりました。グループディスカッションの時間がやや短いと感じました。
- ・ 災害対応された講師の具体的な事例を知る貴重な機会を頂きました。
- ・ グループディスカッションも有意義ではあったが、事例紹介をもう少し時間をとって詳しく聞きたかった。
- ・ とても分かりやすく説明してくださり、ありがとうございました。
- ・ 限られた時間の中で参加団体の問題意識が垣間見えたことが参考になった。
- ・ オンライン研修では、グループディスカッションがとてもやりにく感じた。オンラインだからこそ参加しやすいという反面、やはり対面がいいと思うこともある。
- ・ 実際に被災された市町村の担当者に当時の話を聞ける機会はとても貴重であると感じました。
- ・ 防災訓練や防災講座が定期的実施され、継続することが大事です。このような講座が参加できて、基礎抗議はもちろん、他に避難経験の方から直接お話を聞くことができまして、大変参考になります。ありがとうございました。
- ・ グループディスカッションでは、似た様な団体ごとにグループを作成していただいた方が、より込み入った話になったように感じた。

Q12. その他、今後の「災害に外国人支援に従事する関係者向けの研修」事業において取り上げると良いと思う内容等があればお聞かせください。

- ・ 今回のように、基礎講座で近年の外国人状況等について学び、異なる地域の事例紹介や取組について知ることができる研修が良いです。
- ・ 県、市町、国際交流協会、それぞれの役割分担で、平時において、事前に準備しておくべきことを取り上げていただければと思います。
- ・ 届きやすい情報提供方法について
- ・ もう既に実施されているかと思いますが、今回のようなどちらかというと初任者対象の研修の他に、ブラッシュアップの研修(情報コーディネーター対象のような)の機会を増やしていただくと有難いです。
- ・ 実際に被災された外国人の方から、どのような事に困ったか、また、どのような支援が嬉しかったか等、聞いてみたいです。

- ・ 都道府県と市町、市の中での行政、市町協会や他団体(npo など)との連携の上手くいかなかった点や出来た連携について。
- ・ 外国人とともに築く防災体制といった観点が聞いてみたいです。
- ・ 具体的な災害対応事例
- ・ 災害時での外国人支援訓練の事例発表など
- ・ 多言語情報の発信事例(ホームページや SNS)の具体的な事例(流れや課題、平時に決めておく
とよいこと等)を知りたい。
- ・ 外国人に如何に周知を行うか、周知の方法について個別に取り上げていただければ幸いです。
- ・ ケーススタディをイメージしたもの

以上